



なるほどなっとくニュース

県立山口博物館

学校地域連携担当

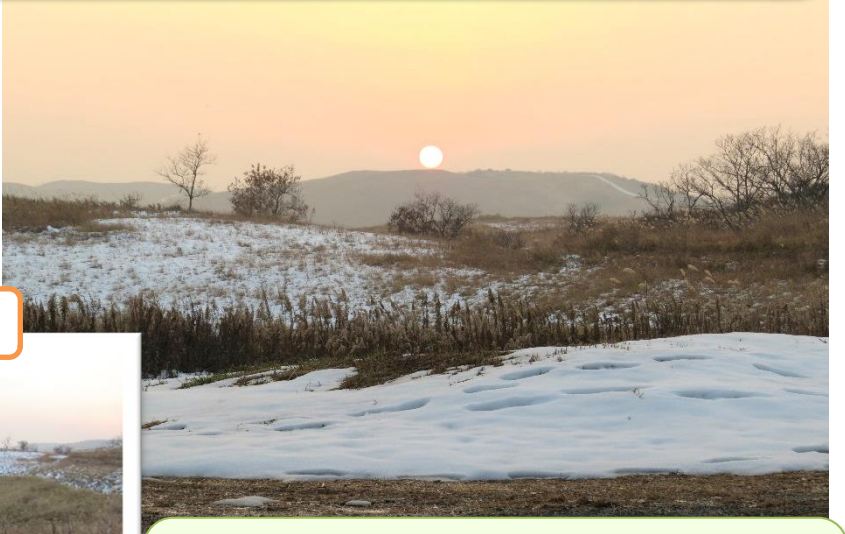
なっとくんの「なるほどなっとくニュース」は、県立山口博物館のホームページでダウンロードすることができます。

3億年前のサンゴ礁に起源をもつ石灰岩台地に森？・・・「長者ヶ森」

秋吉台は、約3億年前（古生代）にかつて温暖な海洋で形成されたサンゴ礁に起源をもつ石灰岩台地ですが、その石灰岩とその上に広がる草原の真ん中に、ポツンと小さな「森」が見られます。それが「長者ヶ森」で、神聖な場所として山焼きでも火入れされずに残った照葉樹林です。（1/12）

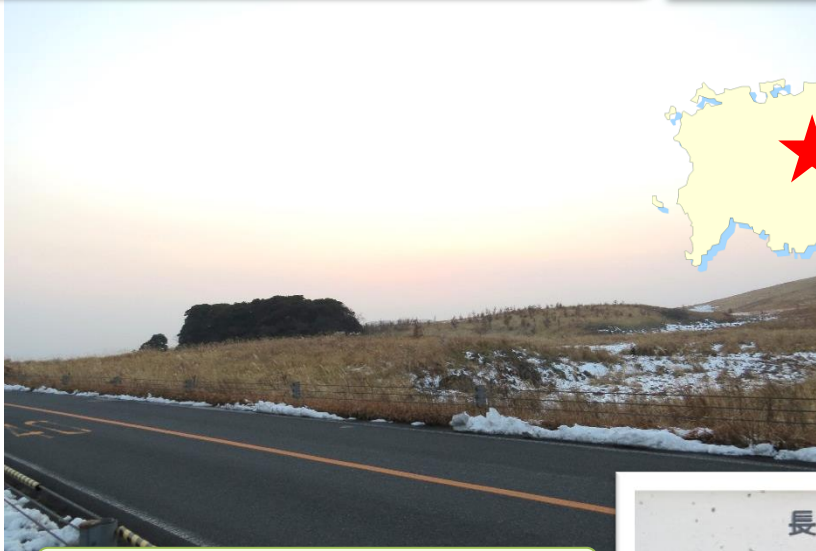


ドリーネ（くぼ地）



秋吉台は、雨で溶かされた石灰岩台地（カルスト地形）の特徴である石灰岩柱やドリーネ（くぼ地）が広がり、国指定特別天然記念物です。

秋吉台の草原に沈む太陽。2日前に降った雪がまだ残っていました。この草原は、「山焼き」によって人工的に維持されています。



草原の中に姿を見せる「長者ヶ森」。



雪景色の中の「長者ヶ森」

長者ヶ森
 平家の一武將大田芳盛は壇ノ浦の戦いで源氏に敗れ、大山（秋吉台）に移り住み、次第に大山周辺を手中におさめ、広大な邸館を構え名家として近郷を圧するに至りました。
 しかし、三代目芳高のころ一族内に内紛が生じ一族は四散しました。ざつと鎌倉（江戸時代）に、大田氏の子孫が先祖をしのいで、かつての邸館跡と思われるあたりにも木を植えたものが、この長者ヶ森であるといわれています。
 林中には古井戸の跡があり、付近に女郎ヶ池と名づけられた泉水があります。秋吉台唯一の原生林として存在するこの森は、タブノキ、ヤブツバキ、カゴノキ、ヤブアザミ、シロダモなど白口余蘆からなっています。



長者ヶ森の中では、石灰岩の間に根を張って木が成長していました。中は案外明るく見通しがききます。



石灰岩柱に近づいてみると、雨水で浸食されている様子がわかります。